

古文書を読もう

第33号
令和7年6月

古文書で知る郷土の歴史

古文書で知る郷土の歴史（十五） 『相中留恩記略』⑧



絵図…国立公文書館所蔵版の絵図を加工

今回は下荻野村です。絵図の中央に見える妙見社は、下荻野子合の現・日吉神社で村の鎮守でした。明治三年に社号を改めました。妙見社の左方には同社の別当寺の妙見寺が、右方には老松の妙見松が描かれています。実は、妙見寺は、妙見社と妙見松の間にあったと言われています（『厚木市史』）。だとすれば、この図に描かれている妙見寺は何でしょう？

妙見社は甲州道（旧国道四一・二号線）から北に向かう子合道にあり、途中には修験道の寺院光善院がありました。絵図に描かれた妙見寺は作者が光善院を妙見寺と間違えたものかと思われます。光善院は現・三田小学校から続く東からの小道が子合道に出会う場所にありました。手前から奥に向かう道に杖を持った背の高い人物と、供の人でしょうか、やや背を屈めた小柄な人物が寺の方に向かって歩いていますが、この道がそうでしょう。

明治初期に妙見寺は廃寺となりました。光善院も明治五年の修験道禁止令で天台宗の寺となりましたが、明治三十年頃には廃寺となり、跡は安産子育てで知られる子合地藏尊の地藏堂となっています。妙見松も松林もなくなり、日吉神社（妙見社）の境内に杉などの林を残すだけです。社の周囲も農地が広がる西側を除き、住宅地となりました。

図の背景には、大山、丹沢、その前衛の浅間山（鍾ヶ嶽）、白山などの山々が今と変わらぬ姿で聳えています。

厚木市古文書解説会

あつぎ郷土博物館に収蔵されている古文書の解説に取り組んでいます。興味のある方は第2、第3、第4木曜日に活動していますのでお問い合わせください。

あつぎ郷土博物館 TEL 046-225-2515



名左衛門の墓石、一族のもとへ

本紙第27号より「古文書入門」として、江戸時代の婚姻覚書を解説しています。花嫁の実家である佐藤家の当主は代々「名左衛門」を名乗っており、元禄十五年（一七〇二）に越後長岡分家牧野氏の家来として越後与板より小諸へ移住して以来、四代目の「名左衛門」が花嫁の祖父です。

佐藤家の宗旨は浄土宗ですが、小諸初代名左衛門（空月院、元禄十五年（一七〇二）没）と二代名左衛門（威徳院、明和五年（一七六八）没）は浄土真宗の門徒であったため、佐藤家の墓所には二人の墓は建てられず、墓石の所在は不明でした。

令和四年（二〇二二）、小諸市の浄土真宗養蓮寺の住職に、空月院および威徳院の戒名と没年月日を伝え、寺の記録を調べてもらいました。威徳院の情報は寺の過去帳と合致したものの、空月院の記述は見当たりませんでした。住職は境内にある佐藤姓の墓石も調べてくれましたが、二人の墓石は見つかりませんでした。

ところが数日後、驚くべき知らせが届きました。住職がふと気になって無縁仏の墓石を積み上げた塚の隙間を覗いたところ、「威」の字が見えたので塚を崩すと、なんと空月院と威徳院の連名の墓石が現れたというのです。

幸い佐藤家の墓所のある墓地は現在、無宗派の墓地となっているため、この二人の墓石は養蓮寺から三百二十年・二百五十四年ぶりに一族のもとへ移され、子孫の供養を受けられるようになりました。

（十二代目名左衛門）

古文書入門（十五）

今回はくずし字用例辞典を使って、「但し書き」の用例を最後まで読んでみましょう。

①「偏」も「旁」も判明しない時は、まず崩し字をなぞってみると元の字の手掛かりがつかめます。推定して探すと多様な崩し方の無を確認でき、用例に「無之」があるので②は之です。この「無」は進行順序とは逆に下の字から読む返読文字で、「これなし」と読みます。③は目と「金偏」の録で「もくろく」、④は計「ばかり」と読み、限定の「だけ」という意味です。

⑤は為で文脈によって読み方や意味が異なります。⑥繰返しなぞると下の字は替と推定でき、用例に「取替」があるので上の字は取です。⑦は漢数字の「一」に見えますが、すぐ下に「ノ」（繰返し符号）に似た点画があるので、用例に「可被成」があります。一文字ずつ返って「なさるべく」と読む常套句です。⑧「月偏」「日偏」に見当たらないので部首索引の「爿（るまた）部」を調べると、文章の区切りとして使う文字の段があります。

かろり第ニ取替

江戸時代の婚姻覚書7

⑨は「木偏」に目で相、用例に「相談」があり談、⑩は②之と同字ですが、ここでは「ノ」と読みます。⑪は漢数字の「三」に見えますが上で、⑫は取の行書体で⑥の草書体と同じ字です。用例に「取極」があり、「決める」という意味に極の文字を使い「とりきめ」と読みます。

⑬は「中」のようにも見えますが申、用例に「申候」があるので下の字は候で、丁寧の意（ます）を表し、字体も多種多様です。頻出するので慣れおきましょう。全体を読み下すと、「これ無し、御目録ばかり御取り替わなさるべき段、御相談の上取り決め申し候」となります。

古文書を読もう

第11巻1号通巻33号

発行日 令和7年6月26日
発行 厚木市
編集 あつぎ郷土博物館
厚木市古文書解説会
住所 〒二四三-〇二〇六
厚木市下川入一三六六-四
電話 〇四六-二二五-二五-一五